

受験番号

社会科教育領域

令和7年度

筑波大学大学院 教育学学位プログラム 博士前期課程  
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 (10月実施)

## 社会人特別選抜 小論文

(10:00～12:00)

### 解答要領

次の事項に注意して解答しなさい。

1. 「解答はじめ」の合図があるまでは解答を始めてはいけません。
2. 「解答やめ」の合図があれば直ちに筆記用具を置いてください。合図の後も筆記用具を持っている場合には不正行為と見なします。
3. 小論文の問題用紙は1枚です。
4. 解答用紙は2枚あります。問いごとに解答用紙1枚を使用し、それぞれの問題番号を明記して解答してください。
5. 解答用紙のホチキス止めは外さないでください。
6. 日本語または英語で解答してください。

【 令和7年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程  
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

社会科教育領域

社会人特別選抜 小論文 (社会科教育領域)

1枚のうち 1枚目

次の、(1)(2)それぞれについて、解答用紙に解答を記述しなさい。

[1] 社会科(地理歴史科、公民科を含む)授業において児童生徒の「探究的な学習」を進めることを念頭に置き、①社会科授業で求められる探究的な学習とは何か、②探究的な学習を進めるために教師はどのような点に留意すべきか、③児童生徒の探究的な学習を教師はどのように評価していくべきか、この三点について、具体的な事例を挙げながら、あなたの考えを説明しなさい。

[2] 以下の3問のうち、どれか一つを選択し、解答しなさい。解答の最初に問題番号と分野名を明記すること。

① (地理)「防災」と関連した授業を実施する場合、どの単元でどのような具体的内容を取り上げるか、具体例を二つ挙げ、それぞれについて詳しく述べよ。

② (歴史) 社会科で、歴史を学ぶ「切実性」について、現在の教育現場ではどのような課題が現状あり、具体的にどのような方法論、題材、切り口で授業を行えばその課題を克服し得ると考えるか、詳しく論じなさい。

③ (公民)「ワーク・ライフ・バランス」を概説するとともに、それを企業等において導入・推進する中で生じる課題について述べなさい。

令和7年度入学試験（10月実施）  
社会人特別選抜 小論文（社会科教育領域）  
解答例（採点基準）・出題意図

**【問題】**

[1] 社会科（地理歴史科、公民科を含む）授業において児童生徒の「探究的な学習」を進めることを念頭に置き、①社会科授業で求められる探究的な学習とは何か、②探究的な学習を進めるために教師はどのような点に留意すべきか、③児童生徒の探究的な学習を教師はどのように評価していくべきか、この三点について、具体的な事例を挙げながら、あなたの考えを説明しなさい。

**【解答例（採点基準）】**

・社会科（地理歴史科、公民科を含む）授業で求められる「探究的な学習」について、学習指導要領（及びその解説）や、社会科教育の理論的・実践的研究の成果などを踏まえ、例えば、単なる知識の習得に留まらず、生徒が自ら問いを立て、その問いを解決する過程を通じて、公民としての資質・能力を育むための学習のように明確に説明できること。

・探究的な学習を進めるにあたっての留意点について、例えば、教師の役割が生徒に知識を伝達することから生徒の学習を支援することへと変化すること、対話的な学びを保證できるように授業で小集団学習を導入すること、生徒が資料の収集・分析をしたり外部人材から情報を得たりできるように学習環境の整備を進めることなど、具体的な視点を提示しながら説明できること。

・探究的な学習の評価について、例えば、ポートフォリオ評価やルーブリック評価を始めとする多様な評価法を導入すること、生徒自らが学びを振り返る機会を提供することなど、児童生徒の探究的な学習を継続的に評価するための工夫に言及していること。

・記述が論理的であるとともに、表現が適切であること。

**【出題意図】**

探究的な学習について問うことで、昨今の教育改革論議に関心を持ち、主体的に考察しているかどうかを確認する。また、社会科授業と探究的な学習の関連性を問うことで、社会科授業の基本的な考え方や具体的な方法についての理解度についてもたずねる。さらに、論述式で回答させることで、大学院における研究に資する論理的思考力や文章作成能力を身につけているかどうかを確認する。

**【問題】**

[2] 以下の3問のうち、どれか一つを選択し、回答しなさい。

① **（地理）**「防災」と関連した授業を実施する場合、どの単元でどのような具体的内容を取り上げるか、具体例を二つ挙げ、それぞれについて詳しく述べよ。

**【解答例（採点基準）】**

・高等学校の地理総合や中学校地理的分野における防災学習に適する単元を選定することが望ましいが、小学校社会科や中学校公民的分野の単元でも防災学習に関する具体的内容

を言及していること。

・地域や災害などの具体的な事例を二つ挙げて、各事例に合わせた防災対策について学ぶようにすること。

・自然災害や防災に関する「知識」、ハザードマップなどの地図活用にかかる「技能」、地域性を踏まえた防災対策を考える「思考・判断・表現」などのねらいとそれに従った学習展開を提案すること。

#### **【出題意図】**

地理教育における防災学習について、具体的な単元を取り上げ授業構成かできるかを問う問題である。自然災害や防災に関する「知識」、ハザードマップなどの地図活用にかかる「技能」、防災対策を考える「思考・判断・表現」の地理教育における防災学習のねらいを地域と災害の関係で捉えようとしている点を確認する。さらに、論述式で回答させることで、大学院における研究に資する論理的思考力や文章作成能力を身につけているかどうかを確認する。

②（歴史）社会科で、歴史を学ぶ「切実性」について、現在の教育現場ではどのような課題が現状あり、具体的にどのような方法論、題材、切り口で授業を行えばその課題を克服し得ると考えるか、詳しく論じなさい。

#### **【解答例（採点基準）】**

・歴史学習の課題としては、未だに受験対策として暗記中心の学習が行われていること、答えは一つであるという「正解主義」を持つ生徒がいるということ、歴史は過去に起こったことで、現代の社会とは関係がないという認識を持つ生徒が多いということが挙げられる。これらを解決するには、歴史を学ぶ「切実性」、つまり自分事として歴史を捉える必要がある。方法論として、その時代の登場人物の一人となり意思決定をさせるものや、主に近現代では現代的な課題に引き付けて現代と当時とのつながりを考えさせるものが挙げられる。題材や切り口としては身近なもの、生徒が関心を持っているものだけでなく、解決すべき課題を必要なものと認識させる手立ても必要である。国際連盟を脱退した松岡洋右には違う選択肢がなかったか、江戸時代の環境問題はどうか考えられていたかなどが具体例としてある。

#### **【出題意図】**

社会科においては1980年代に有田和正と長岡文雄による「切実性論争」がある。しかし、特に歴史分野においては歴史を自分事として捉えることの難しさがあった。これらは「歴史を勉強する意味が分からない」「昔のことで関心を持ってない」などの生徒の意見に代表される。多くの生徒にとって、歴史はすでに終わった、自分とは無関係な過去の出来事の暗記に留まっている現状がある。歴史学習における「切実性」とは、自分の生きているこの世界は過去の人々の無数の選択の結果であり、自分の選択もまた未来の歴史になることを具体的に考えさせることが重要である。こうしたことを論述式で回答させ、大学院での研究に資する論理的思考力や文章作成能力を身につけているかどうかを確認する。

- ③ (公民) 「ワーク・ライフ・バランス」を概説するとともに、それを企業等において導入・推進する中で生じる課題について述べなさい。

**【解答例 (採点基準)】**

・「ワーク・ライフ・バランス」について、例えば、「仕事と私生活の調和をとり、両方を充実させる働き方・生き方」のように明確に説明できること。その上で、ワーク・ライフ・バランスが単に労働時間の短縮ではなく、仕事の成果を出しつつも、人生において多様な働き方・生き方を選択できる環境を指し、それは企業にとっても労働者にとっても両者にとってWIN-WINの関係であることなど、その特性について言及していること。

・ワーク・ライフ・バランスの課題について、例えば、関連する制度の導入により結果的に業務負担の偏りが生じて社員の不公平感が高まること、その導入に伴う生産性の維持に関してコストがかかることなど、具体的な視点を含んで説明していること。

**【出題意図】**

社会科・公民科の教材として取り上げることの多いワーク・ライフ・バランスについて問うことで、現代社会の動きに常に敏感で、教材開発能力を高めていることを確認する。また、抱える課題の中身について言及することで、ワーク・ライフ・バランスを一面的でなく、さまざまな角度から捉えようとしている点を確認する。さらに、論述式で回答させることで、大学院における研究に資する論理的思考力や文章作成能力を身につけているかどうかを確認する。